

令和8年度 大学院連合教職実践研究科入学者選抜（10月選抜）

教科研究開発高度化系

教科学習探究コース 芸術探究プログラム

専門科目：プログラム別問題（教科：音楽）

【解答例】

設問1（配点各10点）

(1)太夫と三味線からなる義太夫節と、人形遣いが一体となって上演する人形芝居。17世紀中頃の江戸、京都、大坂で隆盛した。明治以降は有名な劇場「文楽座」の名にちなんで「文楽」とも呼ばれるようになった。

(2)J.S.バッハはバロック期を代表する作曲家であり、数多くの宗教曲や器楽曲を残した。数世紀経た現在においてもなお、多くの音楽家に影響を与え続け、音楽の父と称されている。

(3)ジャズなどのポピュラー音楽でも用いられる音階。構成音にはブルー・ノートと呼ばれる音（長音階を基礎として考えた場合、3、5、7番目の音を半音低めたもの）が含まれており、これらの音は平均律の半音とは異なる微妙な抑揚として現れる特徴がある。

(4)20世紀初頭にスイスの音楽教育家・作曲家のダルクローズが創始した音楽教育法。聴くことや身体的なリズム運動を重視したことで知られ、日本にも大きな影響を与えた。

(5)明治期の文部省の官僚。文部省内に設置された音楽取調掛の担当官として、日本初の音楽教科書『小学唱歌集』を編纂するなど、日本近代学校教育制度における音楽教育の普及に重要な役割を果たした。

【出題の意図】

設問2（配点50点）

現在の音楽科教育では、日本の伝統音楽や世界の様々な国や地域の音楽を、その背後にある文化的側面も含めて体験的に学ばせることが求められている。本題は、将来教員として学校現場で音楽を教えることになるはずの受験生自身が、この現状をどのように捉えているかを問い、また具体的な授業実践を構想するための基本的な力が身についているかを検査することを意図している。さらに合わせて、自身の考えを他者に伝えるための論理的文章の構成力を検査することも意図している。

令和8年度 大学院連合教職実践研究科入学者選抜（10月選抜）

教科研究開発高度化系
教科学習探究コース 芸術探究プログラム
専門科目：プログラム別問題（教科：美術）

【出題の意図】

設問1（配点50点）

- 1) ～3) おもに小・中・高等学校の図画工作・美術の教科書に掲載されている美術史分野の基礎的な知識を問う。
- 4) 近現代の美術教育の歴史上、重要な人物とその理論や功績についての知識を問う。
- 5) 子どもの描画表現の発達過程とその特徴についての知識を問う。

設問2（配点50点）

解答において、主に以下の点を確認する。

- ・日頃から美術館やギャラリーに足を運び、さまざまな美術表現やその展示方法、環境等に関心を持っているかどうか。
- ・学校と美術館の連携について、どのように協力し合うことができるのか、基本的な知識と共に、具体的な事例を挙げて考えることができるかどうか。
- ・鑑賞教育の方法について、基本的な知識と共に、具体的な事例を挙げて考えることができるかどうか。